

# 公 示

一般社団法人日本集中治療医学会定款に基づき、2014年度～2015年度（平成26年度～平成27年度）の役員及び評議員の選出を行います。

役員候補者及び評議員となることを希望する者は、所定の手続きを行って下さい。

なお、理事、監事、会長候補者の届け出用紙は評議員（有権者）に開示致しますので御了承願います。

## 1. 理 事

一般社団法人日本集中治療医学会定款第19条第4項、理事選出に関する細則に従い、本学会理事任期満了による新理事の選挙を第41回学術集会時に開催される社員総会にて行います。新理事の任期は第41回学術集会終了の翌日より、第43回学術集会の終了日までです。候補者となることを希望する者は、所定の届け出用紙（本学会ホームページよりダウンロード）を用いて、2013年（平成25年）10月31日（当日消印有効）までに学会事務局まで簡易書留にて届け出て下さい。

## 2. 監 事

一般社団法人日本集中治療医学会定款第19条第4項、監事選出に関する細則に従い、本学会監事任期満了による新監事の選挙を第41回学術集会時に開催される社員総会にて行います。新監事の任期は第41回学術集会終了の翌日より、第43回学術集会の終了日までです。候補者となることを希望する者は、所定の届け出用紙（本学会ホームページよりダウンロード）を用いて、2013年（平成25年）10月31日（当日消印有効）までに学会事務局まで簡易書留にて届け出て下さい。

## 3. 第45回会長（副会長）

一般社団法人日本集中治療医学会定款第38条第4項、会長および副会長選出に関する細則に従い、本学会第41回会長の任期満了による第45回会長の選挙を第41回学術集会時に開催される社員総会にて行います。第45回会長に選出された者は第42回学術集会終了の翌日より、第44回学術集会終了日まで副会長となります。候補者となることを希望する者は、所定の届け出用紙（本学会ホームページよりダウンロード）を用いて、評議員5名以上の推薦状を添えて2013年（平成25年）10月31日（当日消印有効）までに学会事務局まで簡易書留にて届け出て下さい。

## 4. 評議員

一般社団法人日本集中治療医学会定款第17条第2項、評議員選出に関する細則に従い、本学会評議員任期満了による新評議員の選出を行います。新評議員の任期は第41回学術集会終了の翌日より、第43回学術集会の終了日までです。候補者となることを希望する者（新任・再任）は、所定の届け出用紙（本学会ホームページよりダウンロード）を用いて、2013年（平成25年）10月31日（当日消印有効）までに学会事務局まで簡易書留にて届け出て下さい。

2013年7月1日

一般社団法人 日本集中治療医学会  
理 事 長 氏 家 良 人

日本集中治療医学会  
優秀論文賞の募集について

2013年度日本集中治療医学会優秀論文賞の授賞候補論文の募集を行います。  
今年度は学術集会会期の関係上2013年10月31日(必着)までに学会事務局に申請下さい。  
尚、応募用紙は本学会ホームページよりダウンロードして下さい。

2013年7月1日

日本集中治療医学会  
理事長 氏家 良人

# 優秀論文賞選出内規

- 第1条 目的  
日本集中治療医学会優秀論文賞（本賞・奨励賞）を設け、集中治療医学の発展に寄与する。
- 第2条 対象  
1) 筆頭著者が日本集中治療医学会会員であること。  
2) 対象論文は、本学会総会の前々年10月から前年11月の間に本学会機関誌に掲載、あるいは本学会学術集会において発表後権威ある学術誌に掲載された原著論文とする。
- 第3条 選考委員会  
選考委員会は次の構成とし、理事会の議を経て理事長が委嘱する。選考委員会は学術集会会長が委員長となり選考を行う。  
1. 本会会長、前会長ならびに次期会長  
2. 機関誌編集委員会より1名  
3. 評議員より4名  
委員の任期は、2.は3年、3.は1年とする。
- 第4条 募集方法  
1) 選考委員長は年1回、候補論文の募集を行う。自薦または他薦による。  
2) 候補論文は別に定める優秀論文賞選考の申し合わせ事項に従い公募する。  
3) 機関誌編集委員会は候補論文を推薦できる。
- 第5条 選考方法  
1) 選考委員会は別に定める優秀論文賞選考の申し合わせ事項に従って最終候補論文を選出する。  
2) 受賞論文は理事会の議を経て決定する。  
3) 受賞論文は年3編以内とする。
- 第6条 受賞  
賞状ならびに賞金を本学会年次総会において会長より授与する。賞金額は、当面本賞1件20万円、奨励賞1件10万円とする。
- 第7条 受賞者は、同年度の学術集会において該当論文内容を報告しなければならない。
- 第8条 基金  
第13回天羽会長よりの寄付金を基金とし、その他寄付金を受け付ける。基金の管理運用は理事長が行う。
- 付 則  
この内規は、1986年3月1日から施行する。  
この改定は、2001年5月18日から施行する。  
この改定は、2002年1月11日から施行する。  
この改定は、2003年5月1日から施行する。  
この改定は、2004年3月5日から施行する。  
(ただし、理事長に関する事項は2005年2月23日から施行する。)  
この改定は、2005年12月22日から施行する。  
この改定は、2013年1月31日から施行する。

# 会 告

## 日本集中治療医学会雑誌の電子出版について

会員の皆様におかれましては、日頃から学会の諸活動と運営にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、日本集中治療医学会雑誌は、来る2014年1月より年6回（年4回から増加）の通常号発行と電子化へ移行することが、理事会および機関誌編集用語委員会で決定しました。紙媒体については、廃止の方向で進めてまいりましたが、存続すべきとのご意見も聞かれましたので、会員の皆様のうちオンライン会員登録を完了している約6,500名の方々にメールマガジンを利用してアンケート調査（回収率20%）を行いました。その結果をふまえ、以下のように決定しました。

なおアンケート結果は、下記にて参照いただけます。

<http://www.jsicm.org/survey/Gakkaishi01/>

- (1) 年6回発行する通常号は、これまで通り組版を行い、冊子体PDFファイルを作成します。このPDFファイルは、会員専用ホームページ上からダウンロード可能とします。下記URLにサンプルを掲示しております。検索機能を充実させ、目次から各論文にジャンプするなどの工夫がなされています。

[http://www.jsicm.org/zasshi/JJSICM20\\_1.pdf](http://www.jsicm.org/zasshi/JJSICM20_1.pdf)

- (2) 最新号が発行されましたら、メールマガジンにて目次および著者、トピックスなどをお知らせします。内容については、J-STAGEからの各論文のダウンロード、および(1)の冊子体PDFのダウンロードにてご覧いただけます。
- (3) 学術集会抄録号については印刷を継続しますが、今後は従来の抄録号から抄録本文と索引部分を除いた紙媒体プログラム号として印刷し、事前に会員の皆様に送付します。抄録本文については、スマートフォンアプリ(iOS, アンドロイド対応)、ホームページで対応させていただきます。
- (4) 年6回発行予定の通常号の紙媒体は、年5,000円にて販売します。ご希望の方は本号に同封しております専用払込用紙にて2013年11月15日(金)までにお申し込み下さい。

電子化によって検索機能などは飛躍的に向上します。紙媒体の利点も十分理解しますが、電子媒体、紙媒体の両方を完全に維持することは経費的に難しいと理事会では判断し、紙媒体は有償として希望される方だけに販売させていただきます。

学会の会費、広告収入は2012年実績で8,200万円、これに対して支出はそれを上回り、そのうち学会誌の編集および郵送費用などが3,500万円を超えております。今回の措置により、機能を向上させつつ約600万～800万円の経費節減を見込んでおります。

日本集中治療医学会の趣旨についてご理解、ご賛同いただき、今後ともご高配賜りますよう心よりお願い申し上げます。

末筆ではございますが、皆様のますますのご健勝をお祈り申し上げます。

一般社団法人日本集中治療医学会  
理事長 氏家 良人  
機関誌編集用語委員会  
委員長 藤野 裕士

# 会 告

## 年会費および会員種別変更のお知らせ

会員各位におかれましては、日頃から本学会の諸活動と運営にご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本学会はこれまで、学術集会の開催、和文機関誌「日本集中治療医学会雑誌」の発行、会員向けの教育事業およびホームページ開設など、広報活動や専門医制度の質的向上などの活動に取り組んできました。

しかし、数年来、単年度の当初予算を超える支出が慢性的に続いてきており、この穴埋めに、多額の学術集会余剰金を組み入れ、何とか凌いできました。学術集会は学会全体の予算と連結しており、余剰金を組み入れること自体は問題ありませんが、余剰金には参加費以外に学術集会の目的のために多くの企業や関連病院などから寄付や広告費として集められた金額も含まれています。また、学術集会は学術集会会長が開催しており、学会がその余剰金を期待し続けることは予算が不安定な状態となり、問題があります。

一方、本学会の大きな方向性の転換をこの1、2年で迎えており、その活動が活発化しています。それは、2017年からの我が国の専門医制度の改定を見据えた教育プログラムや専門医試験制度の改革であり、また、国際化を目指した活動です。専門医制度に関しては、テキスト作成、教育プログラムの作成など昨年来の活動が功を奏して、日本専門医制度評価・認定機構より集中治療専門医が晴れて認定を受けました。また、今年度は国際化を進め将来の学会の発展を図る目的で、英文機関誌「Journal of Intensive Care」の刊行、Global Sepsis Alliance (GSA) と連動した活動を行い、世界集中治療医学会連合 (WFSICCM) の Council Member の席を得ることに成功し、11月には米国集中治療医学会 SCCM の専門医レクチャーコース (MCCRC) も開催します。他学会と連携したガイドライン作成などの活動も行われつつあります。

これらの諸活動の充実に伴って、ますます、財政需要が大きくなってまいりました。この間、機関誌の紙媒体の廃止や種々な形での経費節減に努める一方で、学会開催のセミナー受講料の値上げなど事業収入の確保や、会費の収納率の向上対策にも努め、一定の成果をあげてはおります。しかし、収入はなお財政需要を満たすまでには至っていません。これに何らかの対策をとらなければ、今後も同様の状態が継続することが予想されます。

本学会が今後諸活動をさらに充実・発展させるために、財政基盤の確立が喫緊の課題となっております。そこで、2012年12月14日開催の理事会、さらに2013年2月28日開催の社員総会（評議員会）において、次頁のような会費値上げを提案し承認されました。

また、これまで本学会の会員種別は主に正会員（医師）、看護部会員、臨床工学部会員の区分けがあり、それ以外の医療職種の方は準会員にならざるを得ない状況でした。しかしながら、真の集中治療は医師と看護師、臨床工学技士だけで行えるものではなく、チーム医療として薬剤師、理学療法士、作業療法士、栄養士など多くの医療職（マルチプロフェSSIONナル）が、プロたる技術と知識を持って取り組む必要があります。当学会としてもマルチプロフェSSIONナルの学会を目指し、今後は医療職種を問わず正会員となっただけのよう、定款を変更いたしました。

つきましては、変更後の新年会費および新会員種別を次頁にお示ししますので、定款変更の主旨をご理解いただき、本学会が諸活動をさらに充実させ、会員や社会に対する一層の貢献ができるよう、今回の会費値上げおよび会員種別変更にご理解をいただくとともに、ご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

# 記

## 1. 新会員種別

### ・正会員

(定款第 9 条 正会員とは本会の目的に賛同して入会した医療あるいは医学系研究に従事する者をいう。)

### ・准会員

(定款第 10 条 准会員とは本会の目的に賛同し、正会員に准ずるものとして入会した医療あるいは医学系研究に従事する者をいう。ただし、医師は准会員になることはできない。)

## 2. 新年会費

### ・正会員 12,000 円

\* 定款第 17 条の定めるところにより、正会員は評議員候補者となることができます。

### ・准会員 9,000 円

(現行：正会員 10,000 円，看護部会員 10,000 円，臨床工学部会員 10,000 円，準会員 7,000 円)

## 3. 実施時期

2014 年度 (2014 年 1 月 1 日) から適用

以上

一般社団法人日本集中治療医学会  
理事長 氏家 良人

# 会 告

## 第41回日本集中治療医学会学術集会(第4報)

第41回日本集中治療医学会学術集会

会長 氏家 良人

〒700-8558 岡山県岡山市北区鹿田町2-5-1  
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科救急医学分野

テ ー マ： 集中治療 —マルチプロフェッショナルの心・技・知を集めて！

会 期： 2014年(平成26年)2月27日(木)～3月1日(土)  
理事会と評議員会を2月26日(水)に行います。

会 場： 国立京都国際会館, グランドプリンスホテル京都

最新情報： 第41回日本集中治療医学会学術集会ホームページ (<http://www2.convention.co.jp/41icm/>) にて随時更新していきます。

### <学術集会概要>

学術集会の概要については、2013年9月初めの時点での予定企画情報を掲載しています。プログラム名や講演者は変更になる可能性があります。

注：「英語講演」とあるものには、併催される「第14回日韓集中治療コンGRESS (The 14th Joint Scientific Congress of JSICM and KSCCM, International Scientific Congress for Intensive Care and Critical Care Medicine in Kyoto 2014)」との共通プログラムが含まれています。

#### 【合同プログラム】

##### I. 会長講演

氏家 良人(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科救急医学分野)  
司会 岡元 和文(信州大学医学部救急集中治療医学)

##### II. 鼎談“専門医制度, 特定看護師, 終末期…”

日本麻酔科学会 理事長 外 須美夫(九州大学大学院医学研究院麻酔・蘇生学)  
日本救急医学会 代表理事 行岡 哲男(東京医科大学救急医学講座)  
日本集中治療医学会 理事長 氏家 良人(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科救急医学分野)

##### III. 特別講演

限界への挑戦(仮題)  
三浦 雄一郎(冒険家)  
司会 並木 昭義(札幌医科大学名誉教授)

##### IV. 岩月記念特別講演

重症敗血症と敗血症性ショックに対する国際治療ガイドラインとGSA(英語講演・同時通訳)  
International guidelines for management of severe sepsis and septic shock and Global Sepsis Alliance  
Jean-Louis Vincent (Preident, The World Federation of Societies of Intensive and Critical Care Medicine, Belgium)  
司会 平澤 博之(千葉大学名誉教授)

## V. 招請講演

- I-1. ABCDE バンドルとマルチプロフェッショナルチーム (英語講演・同時通訳)  
ABCDE bundle with multi-professional team  
Carol Thompson (President in 2013, Society of Critical Care Medicine, USA)  
司会 多田 恵一 (浜脇整形外科病院)
- I-2. ARDS ―ベルリン定義と病態生理, 治療― (英語講演・同時通訳)  
ARDS ―the Berlin definition and pathophysiology and treatment―  
John J. Marini (Professor of Medicine, University of Minnesota, USA)  
司会 前川 剛志 (山口県立総合医療センター病院長)
- I-3. ICUにおける免疫系のモニタリング (英語講演・同時通訳)  
Immunomonitoring in the ICU  
Jean-Daniel Chiche (President, European Society of Intensive Care Medicine, France)  
司会 丸藤 哲 (北海道大学医学研究科救急医学分野)
- I-4. ハイリスク外科患者における目標指向型治療 (英語講演・同時通訳)  
Goal directed therapy in the high risk surgical patient  
Andrew Rhodes (Clinical Director of Critical Care, St. George's Hospital, UK)  
司会 織田 成人 (千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学分野)
- I-5. アジアと世界における集中治療 (英語講演・同時通訳)  
Intensive care in the Asia and in the World  
Younsuck Koh (Professor of Pulmonary and Critical Care Medicine, Asan Medical Center, University of Ulsan College of Medicine, Korea)  
司会 西村 匡司 (徳島大学医学部・大学院救急集中治療学分野)
- I-6. ケアとキュアが融合した集中ケア看護  
井上 智子 (東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科先端侵襲緩和ケア看護学)  
司会 保科 英子 (岡山大学病院副病院長・看護部長)

## VI. 教育講演

- EL-1. 重症 ARDS に対する最近の呼吸管理戦略 (英語講演・同時通訳)  
Current respiratory strategy for severe ARDS  
Marcelo Britto Passos Amato (Professor, Cardio-Pulmonary Department, Pulmonary Division, Hospital das Clínicas, University of São Paulo, Brazil)  
司会 真弓 俊彦 (産業医科大学救急医学講座)
- EL-2. H7N9 インフルエンザと治療戦略  
森島 恒雄 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児医科学分野)  
司会 川前 金幸 (山形大学医学部麻酔科学講座)
- EL-3. Compromised host における感染症とその治療  
大曲 貴夫 (国立国際感染症センター長/感染症内科)  
司会 遠藤 重厚 (岩手医科大学医学部救急医学講座)
- EL-4. 急性期医療における臨床倫理  
前田 正一 (慶応義塾大学大学院健康マネジメント研究科)  
司会 公文 啓二 (近畿大学医学部奈良病院救命救急科)
- EL-5. 臨床ガイドライン作成と GRADE システム  
福岡 敏雄 (財団法人倉敷中央病院総合診療科)  
司会 西 信一 (兵庫医科大学病院集中治療部)
- EL-6. VAP と ventilator-associated event サーベイランス  
今井 寛 (三重大学医学部附属病院救命救急センター)  
司会 多治見 公高 (秋田大学大学院救急・集中治療医学講座)
- EL-7. 集中治療領域における災害対応  
児玉 貴光 (The University of Texas Southwestern Medical Center, USA)  
追加発言 山口 大介 (防衛省航空自衛隊航空機動衛生隊)  
司会 森村 尚登 (横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センター)



- EL-8. 最新の中枢神経集中治療の知識  
内野 博之(東京医科大学麻酔科学講座)  
司会 小倉 真治(岐阜大学大学院救急・災害医学)
- EL-9. 最新の血液・凝固線溶異常の知識  
相引 眞幸(愛媛大学救急医学)  
司会 池田 寿昭(東京医科大学八王子医療センター特定集中治療部)
- EL-10. 最新の神経筋疾患患者の呼吸管理の知識  
石川 悠加(国立病院機構八雲病院小児科)  
司会 時岡 宏明(岡山赤十字病院麻酔科)
- EL-11. 小児の急性血液浄化  
六車 崇(国立成育医療センター集中治療部)  
司会 植田 育也(静岡県立こども病院小児集中治療科)
- EL-12. 重症熱傷のICU管理の進歩  
海塚 安郎(製鉄記念八幡病院集中治療部)  
司会 鈴木 幸一郎(川崎医科大学救急医学)
- EL-13. ICUにおける嚥下障害の評価と治療  
藤島 一郎(浜松市リハビリテーション病院)  
司会 森松 博史(岡山大学大学院麻酔科・蘇生学)
- EL-14. ICU機能評価をどうするか  
橋本 悟(京都府立医科大学附属病院集中治療部)  
司会 丸川 征四郎(医誠会病院)
- EL-15. CKDにおける心不全病態と治療戦略  
長谷 弘記(東邦大学医療センター大橋病院腎臓内科)  
司会 妙中 信之(宝塚市立病院集中治療救急室)

## VII. パネルディスカッション

- P-1. 人工呼吸器離脱プロトコール作成  
座長 尾崎 孝平(神戸百年記念病院麻酔集中治療部)  
道又 元裕(杏林大学医学部附属病院看護部)
- P-2. ICUにおける診療看護師と医行為  
座長 福家 伸夫(帝京大学ちば総合医療センター救急・集中治療センター)  
宇都宮 明美(聖路加看護大学成人看護学)
- P-3. ICUにおける職種間連携  
座長 加納 隆(埼玉医科大学保健医療学部医用生体工学科)  
藤野 裕士(大阪大学大学院麻酔・集中治療医学)

## VIII. シンポジウム

- S-1. 日本版PADガイドライン(JPAD)の作成とせん妄患者へのチームケアアプローチ  
基調講演 Richard R. Riker (Division of Pulmonary & Critical Care Medicine, Department of Medicine, Maine Medical Center, USA)  
座長 布宮 伸(自治医科大学麻酔科学・集中治療医学講座集中治療部門)  
行岡 秀和(行岡医学研究会行岡病院麻酔・救急・集中治療科)
- S-2. 日本集中治療医学会・日本救急医学会合同終末期診療ガイドライン作成(日本救急医学会との合同シンポジウム)  
座長 水谷 太郎(筑波大学臨床医学系集中治療部)  
横田 裕行(日本医科大学病院救命救急センター)
- S-3. 重症心不全におけるICUからの心臓リハビリテーション介入(日本心臓リハビリテーション学会との合同企画)  
座長 中川 晋(東京都済生会中央病院循環器科)  
山田 純生(名古屋大学大学院医学系研究科リハビリテーション療法学専攻)

- S-4. 日本版ICUにおける栄養管理ガイドライン作成  
座長 小谷 穰治(兵庫医科大学病院救急・災害医学講座/救命救急センター)  
西田 修(藤田保健衛生大学麻酔・侵襲制御医学)
- S-5. 腎不全に心不全・呼吸不全を合併した患者の血液浄化法とその管理  
(血液浄化心不全研究会との合同プログラム)  
座長 坂本 照夫(久留米大学救急医学)  
鶴川 豊世武(岡山大学大学院救急医学)

## Ⅷ. リフレッシュコース

- RC-1. 深部静脈血栓のモニタリングと治療  
小北 直宏(旭川医科大学付属病院集中治療部)  
司会 田中 啓治(日本医科大学付属病院集中治療室)
- RC-2. 経腸栄養実施におけるプロの技  
巽 博臣(札幌医科大学付属病院集中治療部)  
司会 石松 伸一(聖路加国際病院救命救急センター)
- RC-3. Difficult Airway Management  
岩崎 寛(旭川医科大学麻酔・蘇生学講座)  
司会 武田 純三(慶應義塾大学病院病院長)
- RC-4. エコーガイド下中心静脈穿刺  
佐藤 重仁(浜松医科大学麻酔・蘇生学講座)  
司会 田勢 長一郎(福島県立医科大学付属病院救急科)
- RC-5. 新しい呼吸管理：NAVA, Nasal high-flow, Esophageal pressure monitoring  
内山 昭則(大阪大学病院集中治療部)  
司会 山田 芳嗣(東京大学大学院医学系研究科生体管理医学講座)
- RC-6. PCAS(心停止後症候群)とICU管理  
武田 吉正(岡山大学病院集中治療部)  
司会 稲垣 喜三(鳥取大学医学部麻酔・集中治療医学分野)
- RC-7. AKIの診断基準と治療戦略  
中 敏夫(古梅記念病院)  
司会 片山 浩(川崎医科大学附属川崎病院麻酔・集中治療科)
- RC-8. 呼吸不全とECMO  
Yuki Peterson (University of Michigan Medical Center, USA)  
司会 久木田 一郎(琉球大学医学部救急医学)

## X. 委員会報告

- C-1. 和欧機関誌編集委員会；論文投稿への道標  
丸藤 哲(Journal of Intensive Care 編集委員長)  
藤野 裕士(日本集中治療医学会雑誌編集委員長)
- C-2. 小児集中治療委員会報告  
司会 羽鳥 文麿(医療法人社団誠馨会総泉病院)
1. 小児敗血症診療に関する提言  
志馬 伸朗(独立行政法人国立病院機構 京都医療センター救命救急科)
  2. 小児栄養管理多施設調査  
清水 義之(大阪府母子総合医療センター集中治療科)

## 【医師部門】

### I. 教育講演

- DEL-1. 重症患者の睡眠異常とその評価(英語講演)  
Sleep disorders and assessment in critical illness  
Paul A. Easton (Associate Professor, Department of Critical Care Medicine, University of Calgary, Canada)

- 司会 貝沼 関志 (名古屋大学大学院医学系研究科麻酔・蘇生医学)
- DEL-2. 小児人工呼吸管理における最新のトピックス (英語講演・同時通訳)  
Current topics in pediatric mechanical ventilation  
Andreas Schibler (Professor, PICU, Mater Children's Hospital, Australia)
- 司会 宮坂 勝之 (聖路加国際病院麻酔科・周術期センター)
- DEL-3. 最新の心不全治療の知識  
山科 章 (東京医科大学循環器内科)
- 司会 高山 守正 (榊原記念病院循環器内科)
- DEL-4. ICUにおける経済性と診療報酬の適正化  
松田 晋哉 (産業医科大学公衆衛生学)
- 司会 森崎 浩 (慶應義塾大学麻酔学)

## II. パネルディスカッション

- DP-1. 小児集中治療 (日韓合同) (英語講演)  
Pediatric Intensive Care  
座長 Cheung Soo Shin (President of KSCCM, Seoul Severance Hospital, Korea)  
中川 聡 (国立成育医療センター手術集中治療部)
- DP-2. 各国のICU専門医制度と専門医教育, 評価システム (英語講演)  
The educational system and examination for ICU board in the world  
座長 松田 兼一 (山梨大学医学部附属病院集中治療部)  
Younsuch Koh (Professor of Pulmonary and Critical Care Medicine, Asan Medical Center, University of Ulsan College of Medicine, Korea)

## III. シンポジウム

- DS-1. 侵襲と生体反応 —基礎と臨床—  
座長 松田 直之 (名古屋大学大学院医学研究科救急集中治療医学)  
久志本 成樹 (東北大学大学院医学系研究科救急医学)
- DS-2. Rapid Response System (RRS) は日本で医学的根拠を出せるか  
座長 安宅 一晃 (大阪市立総合医療センター集中治療部)  
坂本 哲也 (帝京大学医学部救急医学講座)
- DS-3. 急性腎傷害 (AKI) に対する集学的アプローチ (日本腎臓病学会との合同シンポジウム)  
座長 織田 成人 (千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学)  
重松 隆 (和歌山県立医科大学腎臓内科)
- DS-4. ICUにおける神経集中治療ガイドラン作成  
基調講演・コメンテーター Gene Sung (University of Southern California, USA)  
座長 黒田 泰弘 (香川大学医学部附属病院救命救急センター)  
長尾 建 (日本大学駿河台病院循環器内科)
- DS-5. 重症呼吸不全に対するECMO治療システムをどう構築するか  
基調講演・コメンテーター Giles Peek (Glenfield Hospital, UK)  
座長 竹田 晋浩 (日本医科大学付属病院集中治療室)  
市場 晋吾 (岡山大学大学院地域医療学講座)

## IV. ワークショップ

- DW-1. 集中治療 最新文献厳選 55  
座長 讃井 将満 (自治医科大学附属さいたま医療センター麻酔科・集中治療部)

## V. Pro-Con

- Pro-Con 1. 腹臥位呼吸管理は重症ARDS患者の予後に有用である  
座長 長田 直人 (宮崎大学医学部地域医療学講座)  
Pro 七戸 康夫 (北海道医療センター救命救急センター救急科)

- Con 高橋 英夫 (名古屋大学大学院医学研究科救急集中治療医学)
- Pro-Con 2. HFOVは重症ARDSに有効な治療法である  
 座長 松川 周 (宮城県立こども病院麻酔集中治療科)  
 Pro 長野 修 (高知大学医学部災害・救急医療学)  
 Con 中根 正樹 (山形大学医学部附属病院集中治療部)
- Pro-Con 3. 敗血症性ショックの急性期治療にScvO<sub>2</sub>は必要である  
 座長 堂籠 博 (信州大学医学部附属病院高度救命救急センター)  
 Pro 中西 加寿也 (成田赤十字病院救急・集中治療科)  
 Con 林下 浩士 (大阪市立総合医療センター救命救急センター)
- Pro-Con 4. 急性期の重症患者のCRRTではCHDFよりCHFの方が有用である  
 座長 鷹取 誠 (広島市立広島市民病院麻酔集中治療科)  
 Pro 住田 臣造 (旭川赤十字病院救命救急センター救急部)  
 Con 志賀 英敏 (帝京大学ちば総合医療センター救急集中治療センター)
- Pro-Con 5. 自発呼吸患者のサポートはPAVがPSVに勝る  
 座長 鈴木 正之 (自治医科大学救急医学)  
 Pro 落合 亮一 (東邦大学医療センター大森病院麻酔集中治療科)  
 Con 星 邦彦 (東北大学病院重症病棟部)
- Pro-Con 6. ICU患者の急性期投与エネルギー量は20~25 kcal/kgも必要ない  
 座長 国元 文生 (群馬大学医学部附属病院集中治療部)  
 Pro 蒲地 正幸 (産業医科大学病院集中治療部)  
 Con 北村 伸哉 (君津中央病院救急集中治療科)
- Pro-Con 7. ECMO センター (ECMO の集約化) は必要である  
 座長 谷川 攻一 (広島大学病院高度救命救急センター)  
 Pro 中川 聡 (国立成育医療センター集中治療部)  
 Con 村井 映 (福岡大学病院救命救急センター)
- Pro-Con 8. ネーザルハイフローはNPPVの代替療法となりうる  
 座長 丸山 一男 (三重大学大学院医学系研究科麻酔集中治療学)  
 Pro 鍛冶 有登 (岸和田徳洲会病院救急部)  
 Con 柴田 純平 (藤田保健衛生大学医学部麻酔・侵襲制御医学)
- Pro-Con 9. 敗血症性ショックの初期輸液にはリンゲル液よりもアルブミンを優先して用いる  
 座長 江口 豊 (滋賀医科大学医学部救急集中治療医学)  
 Pro 藤田 智 (旭川医科大学救急医学)  
 Con 福井 道彦 (大津市民病院救急診療科・集中治療部)
- Pro-Con 10. 重症患者でグルタミン負荷は必要である  
 座長 定光 大海 (国立病院機構大阪医療センター救急センター)  
 Pro 武山 直志 (藤田保健衛生大学救命救急医学)  
 Con 宮内 善豊 (総合病院社会保険徳山中央病院集中治療部)
- Pro-Con 11. 重症患者の経腸栄養は胃内投与より幽門後投与を第一選択とすべきである  
 座長 中川 隆 (愛知医科大学附属病院高度救命救急センター救命救急科)  
 Pro 土手 健太郎 (愛媛大学医学部附属病院集中治療部)  
 Con 東別府 直紀 (神戸市立医療センター中央市民病院麻酔科・NST)
- Pro-Con 12. a-EEGは成人集中治療においても必須である  
 座長 三宅 康史 (昭和大学医学部救急医学)  
 Pro 塚原 紘平 (岡山大学病院高度救命救急センター)  
 Con 小畑 仁司 (大阪府三島救命救急センター)

## VI. 症例検討“ドクターI(Intensivist)”

### 1. 重症感染症

ドクターI 大野 博司 (洛和会音羽病院感染症科)

## 2. 重症熱傷

ドクターI 石原 諭(兵庫県災害医療センター)

## 3. 小児心臓外科術後

ドクターI 竹内 護(自治医科大学麻醉科学・集中治療医学講座)  
岩崎 達雄(岡山大学病院小児麻醉科)

## 4. 凝固線溶異常

ドクターI 石倉 宏恭(福岡大学病院救命救急センター)

## 5. 終末期医療

ドクターI 石川 雅巳(呉共済病院麻醉科)

## 6. 急性中毒

ドクターI 清田 和也(さいたま赤十字病院救命救急センター集中治療部)

## 7. 呼吸不全

ドクターI 大塚 将秀(横浜市立大学附属市民総合医療センター集中治療部)

## 8. 不穏

ドクターI 祖父江 和哉(名古屋市立大学大学院麻醉・危機管理医学)

## 9. 重症外傷

ドクターI 宮庄 浩司(福山市立市民病院救命救急センター)

### 【看護部門】

#### I. 教育講演

##### NEL-1. 危機的患者家族の心のケア

山勢 博彰(山口大学大学院医学系研究科臨床看護学分野)  
司会 栗原 早苗(金沢大学病院看護部)

##### NEL-2. ICUナースのメンタルヘルス

重光 秀信(Division of Pulmonary & Critical Care Medicine, University of Nevada School of Medicine, USA)  
司会 明神 哲也(東京医科大学病院看護部)

##### NEL-3. 集中治療領域における敗血症患者の看護

山口 弘子(名古屋大学医学部附属病院看護部)  
司会 仁科 典子(大阪警察病院看護部)

##### NEL-4. 最近の人工呼吸管理のトピックス

小谷 透(東京女子医科大学病院集中治療部)  
司会 宇都宮 淑子(山口大学医学部附属病院看護部)

#### II. パネルディスカッション

##### NP-1. 重症化を回避する看護援助

座長 清村 紀子(西南女学院大学保健福祉学部看護学科)  
足羽 孝子(岡山大学病院看護部)

#### III. シンポジウム

##### NS-1. ICUの中堅看護師の教育

座長 杉澤 栄(筑波大学病院看護部)  
下村 陽子(信州大学病院看護部)

##### NS-2. せん妄患者へのチームケアアプローチ

座長 明智 龍男(名古屋市立大学大学院精神・認知・行動医学)  
伊藤 聡子(神戸市立医療センター中央病院看護部)

#### IV. リフレッシュコース

##### NRC-1. 重症度スコアとその意義

林 淑朗(医療法人鉄蕉会亀田メディカルセンター集中治療科)

- 司会 吹田 奈津子(日本赤十字社和歌山医療センター看護部)
- NRC-2. 患者中心の鎮痛・鎮静  
鶴田 良介(山口大学医学部附属病院先進救急医療センター)  
司会 茂呂 悦子(自治医科大学附属病院看護部)
- NRC-3. ICU患者の早期離床  
卯野木 健(筑波大学附属病院看護部)  
司会 西村 祐枝(山口県立総合医療センター看護部)
- NRC-4. ナースのための体温管理  
江木 盛時(岡山大学病院集中治療部)  
司会 後藤 由香里(東京医科歯科大学医学部附属病院集中治療部)
- NRC-5. ナースのための循環モニターの知識  
笠岡 俊志(熊本大学医学部附属病院救急部)  
司会 難波 由美子(岡山大学病院看護部)
- NRC-6. 低体温療法の適応と実際  
中村 光伸(前橋赤十字病院高度救命救急センター集中治療科・救急科部)  
司会 吉里 孝子(熊本大学医学部附属病院救急部)
- NRC-7. ナースのためのECMO入門  
三木 隆弘(駿河台日本大学病院臨床工学技士室)  
司会 押川 麻美(福岡大学病院看護部)
- NRC-8. ナースのためのエコー入門  
山本 剛(日本医科大学付属病院集中治療室)  
司会 川原 千香子(東京医科大学病院看護部)
- NRC-9. ナースのためのICU患者の栄養管理入門  
佐藤 格夫(京都大学医学部附属病院初期診療・救急科)  
司会 橋本 良子(岩手医科大学附属病院東5階病棟)
- NRC-10. DNAR  
田村 高志(済生会山口総合病院麻酔科・集中治療部)  
司会 立野 淳子(山口大学医学部保健学科)

## V. 委員会企画

- NC-1. 看護部門編集委員企画；とにかく看護研究をやってみよう  
司会 高島 尚美(東京慈恵会医科大学医学部看護学科)  
ファシリテーター  
伊藤 聡子(神戸市立医療センター中央市民病院看護部)  
池亀 俊美(聖路加メディロカス)  
藤井 玲子(岡山大学病院総ICU・CCU)

## VI. 集中ケア認定看護師による実践講座

- やってみよう！ABCDEバンドル！早期回復に向けて！  
司会 佐藤 みえ(東邦大学医療センター大森病院救命救急センター特定集中治療室)  
畑 貴美子(公益社団法人地域医療振興協会横須賀市立うわまち病院)  
ファシリテーター  
大槻 勝明(総合病院土浦協同病院)  
劔持 雄二(東海大学医学部附属八王子病院)  
中川 温美(自治医科大学附属さいたま医療センター)  
西村 祐枝(山口県立総合医療センター)

## 【臨床工学部門】

### I. 教育講演

#### MEL-1. 血液浄化中の薬物動態

松田 直之(名古屋大学大学院医学研究科救急集中治療医学)  
司会 原田 俊和(熊本大学医学部附属病院ME機器センター)

#### MEL-2. 脳傷害患者のモニタリングと集中治療管理

木下 浩作(日本大学医学部附属板橋病院救命救急センター)  
司会 山香 修(久留米大学病院臨床工学センター)

#### MEL-3. 酸素療法の新たな展開(ハイフローセラピーの可能性)

三住 拓誉(神戸大学医学部附属病院救急集中治療センター/集中治療部)  
司会 山本 信章(順天堂大学浦安病院臨床工学室)

### II. パネルディスカッション

#### MP-1. 集中治療専門臨床工学技士制度の実現に向けて

座長 山下 芳久(埼玉医科大学保健医療学部医用生体工学科)  
高山 綾(川崎医科大学付属病院MEセンター)

### III. シンポジウム

#### MS-1. 集中治療への臨床工学技士のこだわり

座長 梶原 吉春(東大和病院ME室)  
讃井 将満(自治医科大学附属さいたま医療センター麻酔科・集中治療部)

### IV. ワークショップ

#### MW-1. 臨床工学技士からみたECMOへの関わり

基調講演・コメンテーター Yuki Peterson (University of Michigan Medical Center, USA)  
座長 市場 晋吾(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療学講座)  
鈴木 健一(日本医科大学付属病院ME部)

#### MW-2. 呼吸管理における臨床工学技士のアセスメント

座長 今中 秀光(徳島大学病院ER・災害医療診療部)  
野口 裕幸(東京工科大学医療保健学部臨床工学科)

## 【リハビリテーション部門】

### I. 教育講演

#### REL-1. 早期リハビリテーションにおける心肺腎連関

垣花 泰之(鹿児島大学医学部・歯学部附属病院集中治療部)  
司会 高橋 哲也(東京工科大学医療保健学部理学療法学科)

#### REL-2. 早期離床のためにベッドボード(温度板)はこう読む

長谷川 隆一(公立陶生病院救急部)  
司会 森沢 知之(兵庫医療大学リハビリテーション学部理学療法学科)

#### REL-3. 呼吸理学療法最新のエビデンス

神津 玲(長崎大学医学部・歯学部附属病院リハビリテーション部)  
司会 眞淵 敏(兵庫医科大学附属病院リハビリテーション部)

#### REL-4. 集中治療領域における栄養管理とリハビリテーション

諸富 伸夫(榊原記念病院心臓リハビリテーション室)  
司会 永富 史子(川崎医科大学附属川崎病院リハビリテーション科)

### II. パネルディスカッション

#### RP-1. 集中治療領域で理学療法士が活躍するためには何が必要か

座長 高橋 哲也(東京工科大学医療保健学部理学療法学科)  
今中 秀光(徳島大学病院ER・災害医療診療部)

### Ⅲ. シンポジウム

RS-1. 早期リハビリテーションの効果をどのように評価するか

座長 石川 朗(神戸大学大学院保健学研究科地域保健学領域健康科学分野)  
岸川 典明(愛知医科大学病院リハビリテーション部)

### Ⅳ. ワークショップ

RW-1. 集中治療領域におけるリハビリテーションのあり方Ⅰ—心疾患・呼吸器疾患—

座長 玉木 彰(兵庫医療大学リハビリテーション学部理学療法学科)  
演者 斎藤 正和(日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院理学療法科)  
嶋先 晃(市立砺波総合病院リハビリテーションセンター)

RW-2. 集中治療領域におけるリハビリテーションのあり方Ⅱ—脳血管疾患・整形外科疾患—

座長 山下 康次(市立函館病院リハビリ技術科)  
演者 木村 雅彦(北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科理学療法学専攻)  
鵜飼 正二(相澤病院脳卒中・脳神経リハセンター)

#### 【一般演題・最優秀演題・優秀演題】

一般演題全体から最優秀演題を5題程度選出し、表彰する予定です。

また、看護師、臨床工学技士、理学療法士の一般演題からは優秀演題を選び、表彰する予定です。

なお、一般演題は基本的にはポスター発表ですが、一部、口演もある予定です。

#### 【インターナショナルレクチャー】

英語によるアジアを中心とした医師や医療職による教育講演、一般演題を予定しています。

#### 【サテライト研究会、講習会】

1. 第7回日本蘇生科学シンポジウム (J-ReSS)
2. 第4回集中ケア認定看護師研修会
3. ECMOプロジェクトによるシミュレーション、症例検討
4. ICD講習会
5. 第1回ICUにおける外科的気道確保トレーニング
6. 第24回日本経皮的心肺補助(PCPS)研究会
7. 第15回日本周術期時間医学研究会

#### 【共催セミナー】

国内外の著名な医療者による多数の共催セミナーを準備しています。

## <演題発表について>

注意：ヒトを対象とした研究発表では、ヘルシンキ宣言(2000年10月, エジンバラ)に基づき、所属機関の倫理委員会の承認を得て行った研究を発表して下さい。また、症例報告では、患者のプライバシー保護のため、患者が特定できるような表現はご遠慮下さい。日本集中治療医学会ホームページ掲載の「集中治療領域における研究ならびに利益相反(COI) マネージメントに関する指針」ならびに「同施行細則」に従って、開示する義務のあるCOI状態があれば、学会抄録あるいは発表スライド・ポスター等において自己申告して下さい。



## <一般演題採択者の入会について>

一般演題の応募者は、筆頭発表者、共同発表者にかかわらず、日本集中治療医学会の会員に限ります。未入会の方は**至急、入会手続きをお願いいたします**。発表者に未入会者がいる場合は、演題発表ができない場合もありますのでご注意ください。

なお、入会手続きにつきましては、本会ホームページ (<http://www.jsicm.org/>) の「入会案内」をご参照いただくか、または、送付先の住所、氏名を記載した返信用封筒(80円切手貼付)を同封し、入会申込書必要部数を明記して下記までご請求下さい。

請求先：〒113-0033 東京都文京区本郷3-32-6 ハイヴ本郷3F  
日本集中治療医学会事務局  
TEL：03-3815-0589

### ■連絡先

第41回日本集中治療医学会学術集会の運営に関するお問い合わせは、日本集中治療医学会事務局ではなく、下記の学術集会事務局宛にお願いします。

#### 1. 第41回学術集会事務局

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科救急医学分野内

〒700-8558 岡山県岡山市北区鹿田町2-5-1

TEL：086-235-7426

FAX：086-235-6601

E-mail：jicm41@cc.okayama-u.ac.jp

事務局長：岡本 知子

学術部門幹事：市場 晋吾，鶴川豊世武(医師部門)

難波由美子，加藤 湖月(看護部門)

伊藤 英史，林 久美子(臨床工学技士部門)

#### 2. 第41回学術集会運営準備室

日本コンベンションサービス株式会社関西支社

〒541-0042 大阪府大阪市中央区今橋4-4-7 京阪神淀屋橋ビル2階

TEL：06-6221-5933

FAX：06-6221-5938

E-mail：4licm@convention.co.jp

担当：中村 惇，梅田 恭央